

京都大学では、教育・研究・医療・社会貢献活動に伴い、様々な廃棄物が発生します。しかし、統一された廃棄物の分別基準やリサイクル指針などはなく、廃棄物の削減に向けた全学的な方針が必要と考えられます。

ここでは、今回のデータ整理における廃棄物の区分について説明した後、生活系廃棄物の発生実態及びリサイクルの取り組み状況について報告します。

生活系廃棄物発生の実態

◇廃棄物の区分

京都大学において発生する廃棄物は、法律（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）上、事業系一般廃棄物、普通産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物に分類されますが、ここでは、表7に示す通り、大きく生活系廃棄物及び実験系／特別管理産業廃棄物の2つに分けて、データ収集・整理を行った結果を提示します。なお、この項では、生活系廃棄物について報告し、実験系／特別管理産業廃棄物については、次項にて報告します。

表7 廃棄物の区分

本報告書での分類	具体的項目	法律上の分類		
		事業系一般廃棄物	普通産業廃棄物	特別管理産業廃棄物
生活系廃棄物	紙、大型ごみ、その他	●		
	プラスチック屑、ガラス・陶磁器屑、金属屑、蛍光灯、電池、その他		●	
実験系／特別管理産業廃棄物	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、その他		●	●
	感染性、廃石綿、廃PCB			●

※特別管理産業廃棄物は、産業廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染性、その他人の健康または生活環境への被害を生ずるおそれのある性状を有するものとされています。

◇生活系廃棄物の発生量

京都大学における生活系廃棄物発生量（2002～2005年度）を図11に示します。

これによると、京都大学の生活系廃棄物量は、ここ数年、増加傾向にあります。これまで、大学全体としては、活発に廃棄物削減に取り組んできませんでしたが、廃棄物削減は、今後の大きな課題と考えられます。なお、特に2003年度が多いのは、工学研究科の桂キャンパスへの移動に伴い、大規模な物品等の廃棄処分が行われたためと考えられます。

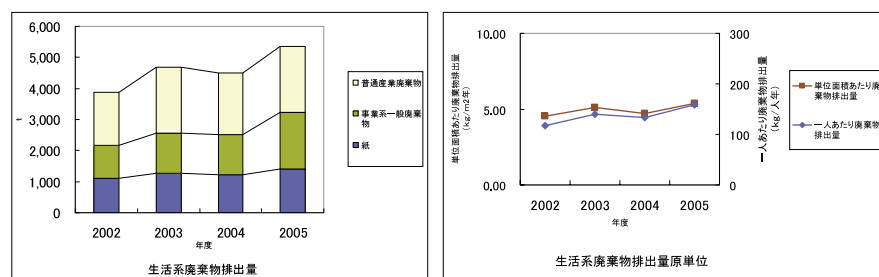


図11 京都大学における生活系廃棄物排出量（2002-2005年度）
⇔データ集：部局別 生活系廃棄物等排出量



廃棄物管理手順書の作成

廃棄物削減に取り組む第一歩として、2005年度には、大学から排出されるすべての廃棄物に関する取り扱い及び記録の方法を解説した「京都大学における廃棄物の取り扱いについて」（2006年2月）を制定し、関係者に配布しました。今後は、制定内容にあわせた分別・収集・処理方法の確保や、廃棄物削減に向けた計画・実行が求められます。

今後の課題

生活系廃棄物の削減に向けて、以下のような取り組みを行う予定です。

- 1)生活系廃棄物の削減に向けて、排出実態を把握・分析し、発生量削減・リサイクル率向上計画を立案します。
- 2)焼却処分されている機密書類を、古紙に再生するシステムを検討します。
- 3)「京都大学における廃棄物の取り扱いについて（2006年2月）」に基づく教育を推進します。

